

赤ちゃんに免疫のプレゼント

30週

前後に

アブリスボ

妊娠中に接種するRSウイルスワクチン

本ワクチンは 2026年4月1日から定期接種ワクチンとなり助成対象です
※それ以前の接種は33330円になります

定期接種

新生児期・乳児期の赤ちゃんを RSウイルスから守ろう

接種方法

- ・ 公費対象：妊娠 28～36週
- ・ 1回 0.5mL 筋肉内注射
- ・ 当院では30週前後（30～32週頃）推奨

※赤ちゃんへの免疫移行を最大とするため
それ以外の時期希望の場合は要相談(24週～)

公費助成

助成内容・申請方法は
自治体ごとに異なります

詳細はお住まいの自治体HPを
ご確認ください

RSウイルスとは？

多くの子どもが 2歳までに感染… でも

- ・ 乳児の肺炎・細気管支炎の主要な原因
- ・ 特に 生後6か月未満 は重症化しやすい
- ・ 生後1～2か月が重症化リスクが最高
- ・ かかった時、有効な治療薬はない

※これまで早産児などハイリスク群は赤ちゃんに予防の抗体製剤を直接注射していました



このワクチンの仕組み

妊婦さんが接種すると…

1. 母体で抗体が作られる
2. 抗体が胎盤を通して赤ちゃんへ移行
3. 出生直後から赤ちゃんを守る

→ 生後6か月頃までの重症RS感染を予防

※この免疫は期間限定なので、いずれ幼児期にかかりますが
1番弱い時期を守ってあげることができます



主な副反応

- 注射部位の痛み
- 発赤・腫れ
- 倦怠感
- 頭痛
- 筋肉痛
- 吐き気

多くは 軽度～中等度で数日以内に改善

重大な副反応

アナフィラキシー
(非常にまれ)

接種後30分は院内で経過観察

ワクチンの効果

生後6か月までのRS感染による呼吸器疾患

生後90日まで：57%減少

生後180日まで：51%減少

重症例はさらに高い予防効果

生後90日まで：81%減少

生後180日まで：69%減少

※生後6か月以降の効果は不明（赤ちゃんに移行した抗体は減っていく）

※接種後14日以内の出産では抗体は移行が不十分な可能性あり

出生後の対応に向けて

母子手帳に接種記録を残します

※早産児等の場合に投与する赤ちゃんへの抗体製剤（ベイフォータス・シナジス）は妊娠中にワクチン接種済みの場合、通常は追加投与不要

赤ちゃんへの影響

現時点で早産や低出生体重の増加は確認されていません

※これまでの報告では、妊娠高血圧症候群の発症が若干増える可能性が指摘されており、リスクが高い方は医師と相談して決めていきます

長期的データは現在も蓄積中

インフルエンザやCOVID19ワクチンは母体を守ると共に生まれてくる赤ちゃんを守るものでもありましたこのRSウイルスワクチンも赤ちゃんにとって脅威となる感染症から1番弱い時期を守ってあげる効果があります

ご不明点は妊婦健診時にご相談ください

製品に関する
情報ページです

